

氏名 浅木 彰 則
授与した学位 博 士
専攻分野の名称 医 学
学位授与番号 博甲第 4684 号
学位授与の日付 平成25年 3月25日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Utility of Contrast-Enhanced FDG-PET/CT in the
Clinical Management of Pancreatic Cancer:
Impact on Diagnosis, Staging, Evaluation of
Treatment Response, and Detection of Recurrence
(膵癌診療における造影PET/CTの有用性
(鑑別診断、進展度評価、治療効果判定と再発診断))

論文審査委員 教授 公文 裕巳 教授 八木 孝仁 准教授 水島 孝明

学位論文内容の要旨

目的：単純 CT と FDG/PET で全身を検索後、続けて造影 CT を行う造影 PET/CT の膵癌診療における有用性を、鑑別診断、進展度評価、治療効果判定と再発診断について検討した。

方法：108 例の膵癌患者と 41 例の膵癌以外の膵腫瘍患者を対象に造影 PET/CT を行った。
結果：鑑別診断では、FDG の集積を表す SUVmax は良悪性疾患で重なりがあり、SUVmax による膵腫瘍の良悪性の鑑別は困難であった。進展度評価では、造影 PET/CT で術前診断をした膵癌 31 例で術後の病理診断と比較した。造影 PET/CT の正診率は、局所進展(T 因子)は大部分の項目で 80%以上であった。遠隔転移(M 因子)も 94%と高かったが、リンパ節転移(N 因子)は 42%と低かった。治療効果判定では、SUVmax と腫瘍径、CA19-9 の変動率に有意な相関を認め、SUVmax は効果判定の有用な指標になると考えられた。再発診断では、造影 PET/CT で 11 例の術後再発を診断したが、腹部造影 CT では 7 例であった。

結論：造影 PET/CT は、膵癌診療において有用である。

論文審査結果の要旨

本研究は、単純 CT と造影 FDG/PET の膵癌診療における有用性を、108 例の膵癌患者と 41 例の膵癌以外の膵腫瘍患者を対象に検討したものである。造影 PET/CT の正診率は、リンパ節転移(N)は 42%と低かったが、局所進展(T)では 80%以上、遠隔転移(M)は 94%と高率であった。治療効果判定では、SUVmax が効果判定の有用な指標となり、再発診断率も高かった。造影 PET/CT が膵癌診療において有用であることを示した価値ある業績と判断される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。